

## 審査の結果の要旨

論文提出者氏名 原田 栄二

本論文は、都市開発における関係当事者総体の機構を管理運営し、当該開発における都市空間増を構想し、その具体化及び普及化を図る専門的な行為の総体である都市設計業務の体系のあり方とその諸類型、都市設計図書の役割とその内容に関して総合的に考察し、都市開発における都市設計業務の新しい役割とその可能性を明らかにしたものである。

論文は7章からなっている。

研究の背景と目的、用語規定及び既往研究のまとめをおこなった序章に続いて、第1章では、幅広く総合的な都市開発事例を網羅的に検討し、その特徴、特質を論じ、本論文で扱う典型事例の抽出が客観的になされていることを注意深く論じている。

第2章では、典型事例として抽出された東京都世田谷区三軒茶屋の都市開発プロジェクトの概要を解説し、詳細な未公開資料をもとに、各段階における計画構想のあり方とその変遷の動きを詳述し、そのプロセスにおいて都市設計業務の果たした役割を客観的に明らかにしている。

第3章から第5章まで、都市設計業務の体系化のための主要な視点を提起し、それぞれの視点ごとにその意義を論じている。

第3章では、都市開発総体をイメージ化段階、機能ダイアグラム化段階、施設ブロック構成段階、空間形態段階の4段階に区分できることを示し、それぞれの段階において都市開発に係わる組織や団体がいかなる役割を演じ、どのような場が設定されたかを論じている。諸組織間を融合する場は、作業の場、市民参加の場、意志決定の場の3つの類型に分けられ、その中間に多様な形態の作業グループが位置づけられることを示している。

第4章では、具体的な都市設計者の活動に着目して、その業務を設計業務、調整業務、普及業務の3つに分類し、事業化のそれぞれの段階ごとにいかなる業務及び機能が要請されるのかをマトリックスによって明快に示している。

第5章では、業務遂行にあたって不可欠な手段としての都市設計図書に注目し、進化・具体化系統の図書と波及化傾向の図書とに二分し、その具体的な表現と果たすべき役割を詳細に分類している。とりわけ都市開発初期のイメージ化段階においては都市設計図書の果たす役割が決定的であることを論じ、いかなる表現によって図書を描くべきであるかについての指針を示している。

最終の結章においては、都市設計業務の役割及び機能に関して全体のまとめをおこない、業務遂行上の留意点を列挙している。また、設計・調整・普及の各業務の類型化を進め、これと都市開発の段階との関連をまとめている。最後に都市開発における望ましい都市設計業務のあり方について提言をおこなっている。

従来、日常実務に近い都市開発プロジェクトにおける都市設計業務に関しては、学問的にその位置づけが検討されることはなかった。都市開発の多様なプロジェクトを総体として概観する視点を提起し、これをもとに典型事例を抽出する道を拓き、さらに、開発プロジェクトの段階ごとに変貌する都市設計業務の内容を両者のマトリックスをもとに簡潔に表現し、都市設計業務の役割に学問的な考察を加えることを可能とした本論文は、都市計画において実務と研究との境界領域に新しい分析の視座を提供するものとして有用である。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。